

## 市民と市長との対話集会会議録【要旨】

令和6年8月17日 阿木地区

### 市長 あいさつ

市民の皆さんとの対話集会はこの4月からスタートし、本日16回目。

対話のテーマは、阿木地区の児童クラブについてということで、今後の活性化のために現状を含め、どうぞよろしくお願いします。

### 参加者

今回は阿木の学童のメンバーが中心となり、子どもたちの居場所づくりを中心に、対話ができればと思う。

阿木地区では、以前、保護者さんたちの協力のもと、長期休みのときには小学校を一画借りて、季節学童をやっていた。

今年度、常時学童を振興センターで開所させてもらったが、その他の場所の確保ができなかった。市の方にも一生懸命動いてもらい、場所を確保してもらっているのはありがたいが、田舎というか、このような地区における場所の問題について、どのように考えているか。

### 市長

場所の問題については、先日、別の対話集会で各地区の学童のいろんな課題の中でも話が出た。

1つは耐震性についてだが、調べたところ現在使っている学童の建物については、耐震補強が必要なものではない。

次に、移動面などを考えたときに、一番良いのは小学校の空き教室だが、現状では空き教室がないということで難しい。その中で、公共の場所で、近いところに、という選択肢から振興センターを使っている。

今後、空き教室が出てくるような状況になれば、場所を移すということも出てくるかもしれないが、阿木小学校はそれほどたくさん教室がある学校ではなく、現実的にはちょっと難しそうかなと思う。

以前は阿木小学校3階の多目的スペースを季節学童などに使っていたが、いろいろなことに使われていて、常时空いている部屋ではない。市としては、振興センターはちょっと距離があるが、許容範囲と捉えている。

また、振興センターには部屋も複数あり、広く使えるが、同じような広さを確保できる場所はおそらくない。個人的には今の場所は広さも確保でき、利用状況からしても良いと思う。

## 参加者

小学校を使った季節学童では、3階の1室のみをお借りするというので、小学校との取り交わし書の作成をはじめ、使用する側としてはとても気を遣う。季節学童であっても、1室だけに居るとするのはすごく苦痛だった。

今年場所を移り、言われるとおりはなつたが、暑さ対策のためにエアコンも使用するため、電気代も非常に高い。ただ、屋内で追いかけてこもでき、暑さ対策をしながら過ごせているので、今の場所はすごくやりやすくなったと実際感じている。

実績としても、3カ月の児童数だが、常時が現在16人、季節が4人の計20人。10人以上は毎日来ていて、子ども同士で遊べる居場所として、学童を立ち上げてよかったなど感じている。

やはり場所は、学校の敷地の近くにとというのは、親さんたちが願うところではないかと思う。

## 参加者

子どもが過ごせる場所ができたのはすごくありがたい。不安な部分もあったが、ちゃんとした建物で、みんなで過ごせるというのはすごく安心だが、できれば学校の敷地内とかにあると、移動もすぐでありがたい。

## 参加者

子どももだんだん少なくなっている中で、同級生とばかり遊ぶのかなと思ったからそんなことはなくて、大きいお姉さんと一緒に遊ぶのが楽しいとか、地域の支援員さんが入ってくれることで、大人からの学びを子どもが聞いてきて、うちで話してくれたりする。最初はいろいろ心配したが、今では子どもが一番楽しんでいて、支援員さんも見守っていてくれてありがたい。

やはり学校の建物となると、すごく窮屈というか、子どもたちにいろいろな制限がかかったり、支援員さんも大変だったようなので、建物としては学校の優先度が高いと思うが、今のように子どもたちがのびのびと遊べるような場所が近くにできると良いなと思う。

## 市長

例えば、空き教室がない場合としてプレハブがあるが、現状、優先順位的には後ろのほうで、距離的に近いという良い面もありながら、トイレなどいろいろな制約が出てきてしまうので課題はある。何を取るかという話になってしまうかもしれないが、ないものねだりなどところがある。

例えば、子どもの数が多い坂本小学校では、プレハブや学校外のところで場所を借りている学童などがある。それぞれ一長一短があり、振興センターのように暑いとき

でも室内で遊べるスペースがある学童はほぼない。子どもたちにとっては良い環境なのかなと感じる。

#### 参加者

常時学童の開所にあたり、非常に協力してもらい、今年度ようやく開くことができ本当にありがたく思う。うちの子どもも毎日楽しく通っていて、先生たちにもとても親切にしてもらっている。

市長の公約に学童の充実があったが、地区によってもいろいろな課題があると思う。すべて一緒にこれをというのはできないかもしれないが、学童の充実についてどのようなビジョンがあるか。

#### 市長

支援員さん、保護者の皆さん、通っている子どもたちが、どういう学童だったらいいか、というところだと思う。まだすべての学童の皆さんの意見を吸い上げているわけではないが、やはり支援員さん、保護者の皆さんそれぞれに課題や要望があり、子どもが減っている地域と増えている地域などの地域性もある。

一概には言えないが、突き詰めていくと、現状それぞれの地域で学童を運営しているが、どこかで包括的に管理する、法人化のような形ができればと思う。例えば、親さんの負担や支援員さんの人の手配など、今よりも軽減できるのではないかと。

実際に苗木地域は法人化して運営をしているので、どんな形で、今後続けていくのか、きっと良い面もあれば課題もあると思うが、そういうことを目指して取り組むことができればと思う。

#### 参加者

学童ができて、やはり広くて、走り回れるところがあるのはとてもありがたい。子どもも楽しそうで、こういう場所に預けられて、すごく安心して働くことができる。

過疎化が進み、子どもが減っていったとき、学童が今後も続くのかなと思うと不安。親としては学童がないと働けないというのもあるが、法人化の話もあったので、そうなれば続いていけるのかなと思うが、近い将来ではないと思うので。

#### 市長

実際、支援員さん、保護者の皆さんのほか、法人化したいと思う市内の他地域で、一緒になってやっていければいいなどは思うが、課題もたくさんあると思う。

ただ、単独で運営するというのは、子どもの数が減ると携わる方の負担も大きくなる。どの地区も皆課題に思っているので、何か一緒に取り組むことでそれが軽減できるのではあれば、やってみる価値はあると思う。

## 参加者

学童が立ち上がる前は、どうにか子どもの居場所をという状態だった。ちょっと離れてはいるが、広い場所で、子どももすごく楽しいようで、地域性もあると思うが、阿木の子は異年齢で遊べて、大人から子どもまで、またOBとの関わりもあり、すごいところだなといつも思う。

ただ、立ち上げ間もないため、役員さんもいっぱいいるところがあるため、法人化はとてもいいと思う。少子化になると親も少なくなってきてしまい、学校や学童の役員がすべて回ってきてしまい、一気に負担がかかる家庭もある。子どもの居場所もだが、親の負担減も希望だし、子どもが少ない地域にもちょっと基準も合わせてもらい、上手に稼働できれば子どもが少ない地域でも、共働きでも楽しく生活できればいいと思う。

## 市長

楽しく通えているのは、きっと子どもたちにとってはすごく良い環境だと思う。それは、場所や支援員さん、子どもたちが年齢・学年関係なく一緒になって学べて、遊べる、そういうのも地域性はあると思う。だから、阿木地区だとみんな友だちみたいなのところがあり、学童でも仲間と遊べるというのはとても大事なことです。

## 参加者

今年度、学童の会計を担当していて、一応経理は仕事でやってはいるが、仕事との両立が厳しく、次の役員さんに引き継ぐのもかなり難しい状態。将来、法人化を考えてもらえるのは、その面では非常にありがたいが、やはり親がやるというのは難しい。結構専門的なこともあるので、何かわからないときに、どういうふうに進めていけばいいか、例えばそういう仕事を代わりにやってくれる人が居たりするのか。

また、他市では統合とかで困っている方がいて、阿木も遠くない未来に、そういう話があるのかなと思う。生まれ育った人間としては、私たちも頑張らないといけませんが、子どもたちが住みやすい市にしたい。

## 市長

少子化は、阿木地区や中津川市だけではなく、都心部を除けば全国的な課題の1つ。これをやれば子どもや人口が増えるというものはないが、移住・定住、少子化対策には取り組まなければいけない。

学校の適正化の話もあったが、教育委員会、地域の皆さん、いろいろな考えがある中で、第1に考えるのは、子どもにとってどういう環境がいいかということ。

子どもの数が少なくなれば、グループでやるような競技ができなくなったりするため、ある程度の数は必要になる。また、集団生活ではいろいろな子がいるからこそ、

良いことも、ある意味では悲しいことも経験をすることができる。市内では、福岡小学校が4つの小学校が1つになったところもある。

これは、親さんを含めて、子どもたちにとって何が一番大事なのかを考えながら、今後そういうことも考えていく必要がある。

まちなかにある東、南、西の小学校や、第一、第二中学校についても、将来的に見たら1つのほうが良いのではということも議論をしながら考え、方向性を示すことが大事であるとする。

#### 参加者

子育てをするなら田舎のほうが良いと思い戻ってきたが、実際子育てしにくいと感じる。大人の居場所づくりも必要。

少子化対策として移住者を呼べるようにしようと活動してくれている方もいるが、土地はあるが宅地がなく、来たくても来れない。優先順位はあると思うが、過疎化が進んでいく地域のそのような課題に対してどう考えているか。

#### 市長

阿木地区として、まちを活性化させるには、そこに住んでいる人たちがやろうと思うかどうか。加子母では、加子母むらづくり協議会の人たちと一緒に、連携しながら、地域を盛り上げようとしている。阿木でもいろんな取り組みをしている団体や移住者の方もいるので、そういった方々が連携していければ。

土地については、移住の多くのパターンでは、空き家に入ろうというほうが圧倒的に多いと思うが、今、空き家バンクでは借りられる家が少ないため、賃貸物件を増やす必要がある。

そういったことを地域の皆さんも一緒になって取り組んでいく必要がある。加子母や川上などは人口的に多くはないが、若い人たちがなんとか地域を盛り上げようと、マルシェなどすごく活発に動いて、まち協さんがバックアップして応援してくれる、そんな形ができている。手探りではあるが、そういうアクションを起こすことが大事で、阿木をなんとかしなきゃいけないと、一緒になってやっていくのが大事。

#### 参加者

親でも各団体でも、市へ気軽に要望を伝えられる流れ、仕組みはないか。

#### 市長

窓口の1つは、地域の出先機関である阿木事務所。阿木のことはまずそこで話してもらえたらと思う。今日のテーマの学童だと子ども家庭課だったり、子どものこととなると教育委員会とか学校など、内容にはよるが、いろいろと相談してもらえたら。

## 参加者

これから人数が減っていくと思うが、学童が維持してもらえるかどうか。今の学童が頑張れば、子育てがしやすいのだと思ってもらえる。例え人数が少なくても、子どもたちが楽しいよって思える場所がすごく大事。

## 市長

大事なのはどうやって続けていけるか。支援員さんも、親さんも、阿木に学童が必要だとなったときに、覚悟を持ってやれるかどうか。それに対して市がどこまで応援できるかということだと思う。市がやろうと仮になったとしても、皆さんが難しいよとなれば運用できない。

今日は学童の話から地域の話までいろいろ話をさせてもらった。いろいろと課題はあるが、一緒になって考えていくことが大事だと思っている。

中津川市は地域が広いが、それぞれにコミュニティーがあり、自分たちの地域をより良くしていきたいという思いを皆さん持っている。その現状を聞き、どうすればそれが良くなっていくか、市として何ができるかということと一緒に考えていくことが大事。

リニア開業をきっかけに、地域の皆さんと一緒に頑張っていけば、そのチャンスがあるまちだと思う。

本日は貴重な意見をありがとうございました。